

第四回生物多様性地域戦略改定検討会 委員発言

資料1

テーマ	意見	発言者
作成方針に関わる意見		
東京の生物多様性の方針の提示	第3章将来像と第4章主な施策の方向性の前段に、東京の生物多様性の大方針が必要ではないか。また、その方針が実現した先に、都民が生物多様性を自分事化できるような工夫が必要。	佐藤(留)委員
記載内容に関わる意見		
データに基づいた東京の生物多様性の現状評価	東京の生物多様性の状況がうまく伝わらない印象があるため、データに基づいた記載にすべき(種の減少など)。	一ノ瀬委員
	現実的にデータが存在しないものもあるため、データがないという事実も書くべき。	
	定量的なデータに基づき、インフォグラフィックによる評価を行うべきではないか。	
数値目標の設定	東京の生物多様性に対する数値目標を定めるべきではないか。	一ノ瀬委員
都外の生物多様性への依存度合の明示	水自給率やエネルギー自給率、エコロジカルフットプリントでもいいが、東京が都外の生物多様性に依存していること、生物多様性が危機的な状態であることを示していく必要がある。	一ノ瀬委員
イングランドとの比較(23ページ)	ヨーロッパは最終氷河期の影響が大きいため、種が少ないのは当然である。東京とイングランドは生態系の成り立ちが違いすぎるため、この比較はミスリーディングではないか。	一ノ瀬委員 須田委員

テーマ	意見	発言者
区市町村連携	第4章主な施策の方向性の先にあるアクションとして、区市町村との連携を見据えたものとする必要がある。(区市町村の緑の基本計画への反映など) 生物多様性は難しい概念だからこそ、区市町村の参考となる上位計画が求められる。	鈴木部会長 佐藤(留)委員
生物多様性の理解度の差への対応	生物多様性は複雑であり、情報の理解度に差があるため、一つの冊子で全ての対象をカバーすることはできない。例えば、中学生向けに冊子、より詳細な情報が欲しい人向けにホームページの作成など工夫が必要ではないか。	鈴木部会長
	ウェブサイトの製作は良い。官民が連携できるようなものとするが良い。また、東京都全体としての戦略が記載される部分が必要である。	佐藤(留)委員
(資料2-3) 東京における環境教育等の活動拠点		
リストの更新	NPOの活動など、民間の取り組みについてもとりまとめ、活動団体へのコンタクトが取れるようなリストとすると良い。	佐藤(初)委員
リストの更新	公園の指定管理者が実施している取り組みについても追記すると良い。都立公園の生物多様性向上の取組なども追記してほしい。	佐藤(留)委員
リストの活用	自然保護協会の自然観察指導員東京連絡会(NACOT)などでも多くの取組を行っている。民間の取り組みについては、情報の収集が難しい場合もあることから、広くアンケートを行って情報整理を行うと良い。連絡会でも協力できる。	鶴田委員
(資料2-4) 生物多様性地域戦略改定に係る「中間のまとめ(将来像等)」作成方針(案)		
策定方針と記載内容の齟齬	中間のまとめの4章に記載予定の「施策の方向性」は、中学生向けとしてはやや違和感がある。	一ノ瀬委員
東京の生物多様性の大方針の掲載	施策の方針の前段に、東京都全体としての戦略について記述が必要ではないか。	佐藤(留)委員

テーマ	意見	発言者
各団体との連携に関する記載	施策の実施にあたっての役割分担や実施時期、各市町村との連携について記載が必要である。	佐藤(留)委員
(資料2-5) 中間のまとめ第1・2章 たたき台		
	P7,8について、SDGsの説明は、資料2-6のp12の図の(ウェディングケーキモデル)ような表現の方がわかりやすい。	佐藤(初)委員
	P10コロナ禍で都立公園の利用が大幅に増えており、重要性が増していると感じている。ただその結果として、様々な種類の人間が集まり、オーバーユースになっているという負の側面もある。マナーの悪さなども目立つ。	須田委員
	P28昆虫は1万種以上が生息しているはずである。レッドリストの総説に書いたので参考にすること。	須田委員
	P40ナガサキアゲハは、自然に飛来したものではなく、人為的に持ち込まれたものが定着したものと思われるため桜の開花時期の件とは書き分けが必要である。また、人為的に持ち込まれた熱帯性の伝染病を昆虫が媒介するリスクもある。	須田委員
	3章以降は、趣旨が異なるため別冊とすることも一案である。また、P1の戦略策定の経緯に関しては最後に記述することで十分。	鶴田委員
	P7「かなりの進捗」としてよいかは疑問である。	鶴田委員
	P34の掲載写真は、大森海苔のふるさと館などの協力を得て、沿岸部の写真としてはどうか。	鶴田委員
	P36「食害」は、人間に害があるようなニュアンスに捉えられるので、「食べられて減る」としてはどうか。	鶴田委員
	2章の冒頭の部分がポジティブな内容から始まっているので、その後が危機感があまりなく散文的になっている。定量的に危機を伝えるセクションが文章内に必要であると考えます。	鈴木部会長

テーマ	意見	発言者
指摘	p10コロナだけに限定するのではなく、もっと広く課題を記述してはどうか。これから先、いろいろな感染症が襲ってくる可能性があるので、そういうことも含めた言葉遣いがいい。	尾中委員
	低地・台地・丘陵地・山林など多種多様なプラットフォームがあることに諸外国の都市計画を担当する方はびっくりする。森林率は3割を超えている。多様性のプラットフォームを作り出しているということを都市計画の観点から22ページに記載することで、3章以降がうまく記載できるのではないか。	尾中委員
	p34多摩ニュータウンでは、定点撮影が行われており、活用できるのではないか。	尾中委員
	パーム油が全て悪者という表現になっているが、持続可能性のあるものを選択的に購入していくような考え方が示されると良い。	鈴木部会長
	課題の記述にあたっては、データを示し説得力のある記述とすること。国連生物多様性サミット(ニューヨーク)で9月に大臣が発言しており、時事的な内容をもっと入れる必要がある。	佐藤(留)委員
	愛知目標の未達成にも言及すること。	佐藤(留)委員
	身近なことから遠い話題が多く、実感を持って楽しく読むことができない。学校で行われている取り組みや、江東区のポケットエコスペース、武蔵野市の学校ビオトープ、都立公園の生物多様性スポット、JBIBなど企業の取り組み、ESG投資などを追記し、ライブ感のあるものとする。	佐藤(留)委員
	建設局公園緑地部では、公園の生物についてモニタリングを行っており参考となるはずである。	佐藤(留)委員
	p22東京にダイナミックな自然があることが伝わるような頁にしたい。加えて、屋敷林や崖線の話も記載してはどうか。	佐藤(留)委員
	P33絶滅危惧種であることを含めて説明してはどうか。	須田委員

テーマ	意見	発言者
	課題への答えはあえて記述せず、問いかけ形式にすることで意識啓発することも一案である。	鈴木部会長
	P22奥多摩にブナ林、シオジ林が残っていることの説明があると良い。	辻委員
	P14皇居の写真は、明治神宮としてはどうか。	辻委員
	P35パームヤシはピンと来ない。ボルネオの伐採地としてはどうか。	辻委員
	自然の素晴らしさをもう少し強調するために、山地・丘陵地・台地など、良いものを紹介するパートがあってもいいのではないか。	辻委員